

図書館だより 第33号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

— 目 次 — contents

- Book of Life ～私と図書館～ 2～3p
「図書館の日々」 経済学部 加藤 一弘
「図書館と私」 国際文化学部 井上 和枝
- マクマレイ・ゼミ推薦本 4～5p
- あなたのお悩み解決し隊!! 6p
(第9回：新規データベース編)
- 図書館サポーター活動報告 7p
- Library Report 7～8p



わたしと図書館 ~Book of Life~



経済学部経済学科 加藤 一弘

図書館より、何か書けとのお達しがあった。私がいづつも図書館で何やら忙しげにしているのが目に留まってとのこと。それだけ利用しているのだから、少しぐらいは図書館の仕事にも協力せい、ということかもしれない。

たしかにここ数年、図書館にはたいへんなお世話になっている。学内で最も利用時間の長い人間の1人ではないだろうかと思う。もっとも私の利用の仕方はひどく偏っていて、要するに図書館の英語辞典を使わせてもらっているのである。利用している辞典は、主として研究社と Oxford の大型辞典で、研究社は『大英和辞典』と『活用大辞典』、Oxford は *Oxford English Dictionary* と *Oxford Advanced Learners' Dictionary* で、これ以外では、ときどきランダムハウスの『大英和辞典』のお世話になっている。

この駄文をお読みの皆さんは、どうしてこんなに馬鹿げて大げさに英語辞典を使っているのかと、お思いになるだろうと思う。私自身も、どうしてこんなことをやっているのだろう、と我ながらあきれるところがある。だがそれでもやめられないのだ。またやめてはイカンのである。これは悲しき職業上の必然なのだ。

どういうことかということ、あるとき「冠詞」がやたらと気になるようになった。これを中途半端に扱っていたそれまでは、ひょっとしてテキストが本当は全然わかつちやいなかったんじゃないか、と不安になった。こうなるともうお終いである。私は、専門分野がイギリス経済史で、商売上、イギリス史についての英文テキストを毎日読んでいなければならないのだが、この読み方が、極端に几帳面になった。そうすると「冠詞」だけでない。疑問な点が次から次へと現れて、かくて山なす英語辞典に、毎日お世話になることと相成った

のである。

調子にのって自分のことばかりしゃべってしまった。大事なのはわれらが図書館のことだった。思い至るのは、テキストの読み方がこういう風になってくると、大学図書館の実力というのが、しみじみと実感されるということだ。他の言語は知らぬ。だがこと英語に関して言えば、私程度の人間にとっては、必要にして十分な情報がふんだんに蓄積されているのである。

もちろん図書館の辞書類を当たりまくっても、ついにわからぬ表現は、いくらでもある。それでも、「これだけ調べてもわからないということは、きっと著者の独特の言語感覚なのだろう」という気持ちになれる。「これだけ練習したのだから」という体育会系の気持ちの落ち着かせようと同じく、ほじくり返せば怪しげな納得の仕方だが、こういう風に納得ができることは、とてもありがたいことなのだ。

忘れるところだった。図書館では、私は AV コーナーの愛用者でもある。全部数えれば10本くらいだろうか、英語圏の洋画を、繰り返しここで見させてもらっている。繰り返し見るうちに、頭にこびりついたストーリー展開や、次第に耳に入るようになった言い回しを、これまた繰り返し味わうのは、なかなか楽しいひと時なのである。





図書館と私

国際文化学部国際文化学科 井上 和枝

図書館は私の研究にとっては、なくてはならない存在である。時には、研究の秘書的な役割までしていただいていると感じ、いつも図書館職員の方たちには感謝している。本学の図書館に探している本がない時の相互貸し出しはもちろんだが、他大学の図書館に資料収集に行く時など、非常に丁寧にしっかり調べて先方と連絡を取ってくださり、行きさえすれば用が足せるようにして下さる。地方にいて、都市に比べれば資料などの研究環境が整っていない我々にとっては、何よりの力強い味方である。

夏休みの少し前、九大の貴重な古書を WEB の文献目録で見て、借り出していただいた。しかし、2巻あるはずの本が1巻しか来ない。もう1巻も御願ひしたが、なかなか送られてこない。韓国に資料収集に出かけるので、その前に入手して読まないで、返却の日に間に合わなくなる。しびれを切らせて問い合わせてもらったところ、九大では発送手続きをとってくれたことがわかった。「今日か今日か」と待っていたが、とうとう韓国に行く前日になってしまった。その日は土曜日であった。送料は受取人指定なので、午後、宅急便が来ても総務課の職員の方がいないから支払いができなくて、受け取れない。焦っていた時、図書館から電話が来て、午後、宅急便が総務課に来て受け取れるように、守衛さんに代金を預けたとのことであった。それぞれの細かい事情に合わせて、行き届いたサービスをしてくださったことに頭が下がった。

本学の図書館はサービスという点では徹底していて、利用者にとって、大変気持ちよい空間になっている。最近もこんなことがあった。数年前、私の名前『東亜日報』のマイクロ版を本学に設置するよう、私学助成に応募した。図書館の全幅の応援で書類が通って購入できた。九州では本学図書館だけが、マイクロと現物あわせて『東亜日報』を創刊号から現在まで全部そろえていることになる。実は1940年までの『東亜日報』誌面は、インターネットで公開されていて、見ることは

できる。しかし、パソコンから印刷しても、文字がつぶれていてとても読めない部分が多い。そのような時、私は読めない文字を確かめにあわてて図書館に走ることになる。ただ、本学のマイクロを読むリーダーは古いので、とても使いにくいし、手順をすぐ忘れてしまう。先日、論文を書いている途中で、図書館のマイクロを読みに行ったが、画面が裏表ひっくり返しになってしまいどうしても読めない。その日はキャンパス見学会の日で、マイクロの操作ができる職員の方が、そちらに借り出されていて不在であった。カウンターにいた職員の方が丁寧につきあって下さったが、やはり根本的解決ができなかった。あきらめて研究室にもどって仕事をしていたら、夕方5時頃図書館から電話が来た。マイクロの操作ができる方が戻ってきたので、使えるようになりましたという内容であった。大喜びで図書館に飛んでいき、論文の締めきりにまにあわせることができた。驚いたのはその何日か後、「すべての職員がマイクロリーダーの扱いに習熟するよう講習会をしたので今後はいつ来られても大丈夫です」というメールがきたことであった。職業意識とサービス精神には大変感動した。大学院生にも『東亜日報』はマイクロで読むのがよいと話したところである。

そのように、本学の図書館のサービス精神は非常に優れているが、もうひとつ自慢に思うことがある。人文・社会科学の蔵書がそろっていることである。最初、本学に来た時もそうだったが、今でも、まさかと思う本が所蔵されていてびっくりすることがある。あるいはないと思い、相互貸し出しで他大学図書館から借りようとして、念のため、本学図書館の WEB 検索をすると所蔵されていることが何度かあった。研究者にとって、その時、必要な本がすぐそばにあるとわかった感動は、ちょっと大発見にも似た喜びである。

それらの蔵書がさらに活躍できるよう、学生たちには本を読むこと、調べることの喜びを伝えていくのが、自分の仕事の一つと考えている。

英語の段階別読み物 ～マクマレイ・ゼミの推薦本～

私たちマクマレイゼミでは、ゼミ活動の一環として毎週一人最低1冊ずつ英語で書かれた本を読んで、それぞれ自分の読んだ本について英語で説明する活動をしています。2～4年で段階的にレベルを上げていき、本を読んでいきます。いずれも日本語訳はあるので興味を持った本があれば読み比べるのもいいかも知れません。私たちマクマレイゼミの学生はみなさんに少しでも英語の本に慣れ親しんでもらうためグレイデッドリーダーズシリーズ(各自の英語レベルに分かれたシリーズ)を推薦します。

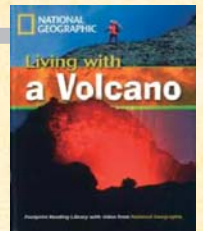
Living with a Volcano

著：Rob Waring 出版社：Thompson Heinle (2008)

大きな火山であるエトナ山の近くにはいくつかの町が隣接している。いつ火山が噴火するかわからない状況の中、隣接する町での暮らしとはどのようなものか。また、火山が人々にもたらしているよい影響、悪い影響とは？

この本の表紙を見たとき、毎日見ている桜島のことか思い浮かび、手に取るきっかけになりました。桜島の近くで暮らしているわたしたちと共通する部分がいくつかあり、比較しながら読むことができました。英語で書かれていますが、文章量も短く内容もそれほど難しくないと思うので興味のある方は読んでみてください。

国際文化学部国際文化学科2年 満富 大樹



Narnia the Lion the Witch and the Wardrobe - Tea with Mr. Tumnus

著：Jennifer Frantz 出版社：HarperCollins Children's Books (2005)

人間の女の子であるルーシーは、兄弟とのかくれんぼの最中にクローゼットの中に逃げ込み、どういうわけか、見知らぬ雪の降る森の中にいた。森の中山羊の耳をしたタムナスと出会った。2人はすぐに友達となりタムナスの家に招待された。タムナスはそこで、ナルニアには春が来ないこと、その原因となっている白き魔女がいること、また、白き魔女は「人間」でなければ倒せないことをルーシーに告げた。しかし、タムナスは1つだけ伝えていないことがあった。それはナルニアに住む者のきまり「森で人間を見つけたら、白き魔女に伝える」ということだった。

この作品は、ほとんどの人が映画などで目にする機会があったのではないのでしょうか？僕もこの映画は見たことがあるのですが、英語の本で見る機会がこれが初めてでした。そこまで難しいという英文ではないので興味を持ったなら見てみてはいかがでしょうか。話を知った上で見返すというのも悪いものではありませんよ。

国際文化学部国際文化学科2年 井ノ原翔吾



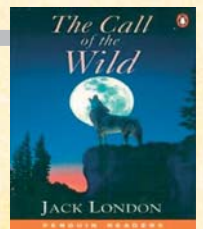
The Call of the Wild (Level 2)

著者：Jack London 出版者：Penguin Readers

この物語の主人公バックは、サンディエゴ地域の名家に飼われていたのだが、飼い主が騙しに遭い、バックはアラスカ近辺に売られてしまう。そこでは金鉱が見つかり、その移手段に犬ぞりを使うため多くの犬が求められていた。極寒のアラスカで犬たちは過酷な仕事を強いられ、耐えきれなくなって多くが倒れてしまうからだ。そんなバックも鞭や棒で叩かれ人間に仕えることを叩きこまれていくも次第に環境に適応していく。仲間内でのリーダー争いに参加するなど野生に戻ろうとする行動もみられるようになり、時間を追うごとに野生回帰の欲望は高まっていくのであった。

私は、この本を読んで改めて動物の本来の生き方について知ることができたように思います。最近では人間の動物に対する扱いも雑になってきているように思えるのでここで考え直すのもいいと思います。

国際文化学部言語コミュニケーション学科3年 寺田 智大

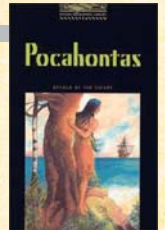




Pocahontas (Level 1)

著者：Tim Vicary 編集：Tricia Hedge 出版者：Oxford Bookworms

ポカホンタスはインディアン・ポウハタン族の娘であり、ジョンは新大陸の開拓・征服を目的とするイギリス人探検家であった。彼らは出会ってすぐに恋に落ちてしまうも、それぞれの勢力同士の間隙に巻き込まれてしまう。彼らは様々な困難を乗り越え愛し合うのだが、最終的にジョンはイギリスへ帰国、ポカホンタスは自分の故郷へ残るという決断を下す。



この本はインディアン王女のポカホンタスとイギリス人探検家ジョン・スミスの感動的ラブストーリーを描いています。異国の者同士でありながらも深く愛しあった二人の愛は永遠のものだろうと思います。

国際文化学部言語コミュニケーション学科3年 劉馨月

Half-Blood Blues

著者：Esi Edugyan 出版者：Thomas Allen (カナダ) 2011

第二次世界大戦勃発後のナチス統治下のパリで一人のジャズミュージシャンが逮捕された。彼はドイツ人であった。そして黒人だった。

それから50年後、彼の友人であり、音楽仲間だったSidは彼との忘れ難い時間、友情、愛憎、そして彼の運命を決めたであろう、ちょっとした裏切りを追憶していた。

スラングが多く使われていて最初は、難しく感じるかもしれませんが、慣れるとそれらから臨場感を感じることができます。情熱的で魅力的な物語です。



国際文化学部言語コミュニケーション学科4年 時村 祐輝

Canada Project in Kyushu = 九州カナダプロジェクト 2011 Volume 7

編集者：マクマレイ・デビッド、大西智和

出版社：鹿児島国際大学附置地域総合研究所内カナダプロジェクト

マック・ゼミの大学院生は、リーディングだけでなく、Canada Project in Kyushu 2011 Vol.7に、カナダに関するいくつかの面白い記事を投稿しています。

先生や先輩の文章は自分にとても役立ちます。



国際文化研究科2年 周伊麗

最後に

英語で書かれた本を読みたいと思っても、何から手をつければいいのか分からない方は、マクマレイゼミの推薦本を読んでみてはいかがでしょうか。初めは表面的に読むだけでも、多くの英語に触れられると思います。これをきっかけにして、みなさんの英書を読む機会が増えるならとてもうれしいです。

あなたのお悩み解決し隊!!



第9回：新規データベース編

今年度新規契約データベースの中から、「JapanKnowledge+ (ジャパンナレッジプラス)」をご紹介します。
このデータベースは辞書・事典を中心にした知識源から「知りたいこと」を一度に検索できるデータベースです。
様々な種類の辞典や、東洋文庫などの叢書まで、あらゆる項目の一括検索が可能です。

利用する際は、鹿児島国際大学附属図書館のホームページにアクセスし、詳細検索のコーナーから「JapanKnowledge+ (ジャパンナレッジプラス)」を開く。「ログイン」をクリックすると、検索画面が開きます。
(※データベースは大学内のパソコンからのみ利用できます。)

キーワードを入力し、「検索」をクリックします。
右のコンテンツ(✓が入ったもの)の中から横断検索されます。

例) キーワードに「源氏物語」と入力して検索した結果、26件の見出しがヒットしました！たくさんの辞典を一度に検索できてとても便利です。

クリックすると、それぞれの本文を読むことができます。



図書館サポーター活動報告

4月～新入生勧誘～

新年度が始まり、4月には新入生勧誘を行いました。今年もたくさんの新入生が仲間に加わってくれました♪
また、新年度初めての部会と展示も行いました。

5月～新入生歓迎会～

図書館サポーターでは、毎年新入生と部員が仲良くなるために新入生歓迎会を開いています。一緒にご飯を食べながら話をして、楽しい時間が過ごせました☆

5月～図書館サポーター選書～

これは、図書館サポーターがユーカー会館内の紀伊国屋書店で図書館に入れたい本を選ぶという活動です。前期と後期に一回ずつ行っています。図書館内にサポーター選書のコーナーがあるので、ぜひ見てみてください！

7月～オープンキャンパス～

今年のオープンキャンパスでは、『クイズラリー』、『パネルシアター』、『地下探検』を行いました。また、パワーポイントを使って図書館サポーターの紹介も行いました。参加してくれた高校生には、サポーター手作りのうちわをプレゼントしました。たくさん的高校生が楽しんでくれて、思い出深いオープンキャンパスになりました☆

図書館サポーターは、図書館業務のお手伝いや月ごとのテーマ展示などの活動をしています。本が好きな方や司書に興味があるという方、私たちと一緒に活動してみませんか？サポーターは赤いジャンパーを着ているので、気軽に声をかけてください(^_^)/
ブログも毎月更新中ですので、ぜひ見てみてください！

(<http://iuk-plus.net/tosyokan/>)



Library Report



平成24年度出張一覧表

出張名	開催地	日程
私立大学図書館協会西地区部会2012年度九州地区協議会	鹿児島	4/19
第63回九州地区大学図書館協議会総会	鹿児島	4/20
平成24年度第1回鹿児島県大学図書館協議会研修委員会・広報委員会	鹿児島	5/17
鹿児島県大学図書館協議会総会および情報交換会・懇親会	鹿児島	5/28
私立大学図書館協会2012年度西地区部会役員会・総会	石川	6/14～6/15
平成24年度第1回大学地域コンソーシアム鹿児島地域共同リポジトリ事業部会	鹿児島	6/29
平成24年度大学職員情報化研究講習会(基礎コース)	静岡	7/4～7/7
私大図協2012年度西地区部会研究会開催に伴う支援申請等の打ち合わせ	鹿児島	7/26
私立大学図書館協会西地区部会2012年度九州地区協議会九州地区研究会	熊本	9/7
私立大学図書館協会2012年度第2回西地区部会役員会	鹿児島	9/13
私立大学図書館協会2012年度西地区部会研究会	鹿児島	9/14
私立大学図書館協会2013年度西地区部会第1回運営委員会	岡山	10/19
平成24年度第1回鹿児島県大学図書館協議会研修会・講演会	鹿児島	11/1
平成24年度司書・司書補講習開催大学全国連絡協議会	東京	11/9～11/10

Library Report



私立大学図書館協会2012年度西地区部会研究会

9月14日、私立大学図書館協会2012年度西地区部会研究会が本学7号館で開催されました。会長校の立教大学をはじめ、東海、京都、阪神、中国・四国、九州の5地区から93名が参加しました。

メインテーマ「新しい図書館活用の可能性を求めて」のもと、午前中は鹿児島国際大学短期大学部三木靖名誉教授による基調講演「国宝島津家文書と鹿児島」、午後は各地区から5つの研究発表が行われました。

また、図書館にも多くの方が見学に来てくださり、館員、図書館サポーターで案内し、研究会を無事に終えることができました。



新スタッフ紹介

情報サービス係：図書館係長 丸目 裕美

本年度4月の異動で大学図書館に勤務することになりました。サービスカウンター（2・3階）で主にレファレンス・貸出・返却を担当しております。鹿児島短期大学・鹿児島高等学校図書館での経験はありますが、大学図書館の業務はこれまでの経験とは大きく違い、周りの方に教えていただきながら勉強の日々です。少しでも早く皆様の役に立てるよう日々努力・笑顔で頑張りたいと思っています。

情報サービス係 精野 仁悟

今年の8月から図書館の情報サービス係で、オーディオルームでの業務を担当させていただいております。毎日、周りの温かいご指導の下、楽しく仕事を行っています。学生の目線にたった、音楽情報の発信基地、音楽資料の泉とオーディオルームがなるよう、工夫を凝らし、先輩方にご指導を仰ぎながら、日々努力してまいります。

情報整理係 一松 舞子

今年の8月から図書館に勤務させていただいています。情報整理係で雑誌の受入れ業務を担当しています。今まで、世の中にこんなに多くの雑誌があるとは知らなかったのですが、毎日新鮮な驚きを感じています。図書館で働くのは初めてで、右も左もわからない状態でしたが、職員の皆様の大変温かく親切なご指導の元、毎日楽しく頑張っています。まだまだ未熟ですが、少しでも進歩できたらと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



編集後記



鹿児島の短い秋もあっという間に終わり、気が付けば、新しい年がそこまで来ている、そんな時期になりました。オリンピック・イヤーの今年は、皆様にとってどのような年だったでしょうか。さて、図書館では、「図書館だより」のほかに、リーフレットを作成し、カウンターに置いています。校内の読書スポットや学生生活に役立つプチ情報などを載せていますので、こちらもよろしくお願いいたします。

最後に「図書館だより」第33号のために、忙しい時間をめって原稿を書いてくださった皆様、本当にありがとうございました。(Y.O)

図書館だより－鹿児島国際大学附属図書館報－ 第33号 2012年12月21日発行

鹿児島国際大学附属図書館 〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1

TEL:099-263-0732 FAX:099-261-1198 E-mail:tosyokan@ofc.iuk.ac.jp

(URL) <http://www.iuk.ac.jp/tosyokan/index.php> (携帯URL) <http://lbweb.iuk.ac.jp/nbp/>